



2018 URBAN RESEARCH ISA WORLD SURFING GAMES

Memorial Magazine

September.15-22.2018
@Long Beach(Tahara,Aichi,Japan)



●発行 / 田原市

2018アーバンリサーチ ISA ワールドサーフィンゲームス 大会記念誌

Contents

はじめに	1
サーフタウンたはら	2
波乗りジャパン	4
ブレイベント	6
プレスカンファレンス	
ビーチクリーン	
オープニング	8
パレード・オブ・ネイションズ	
オープニング・セレモニー	
コンペティション	10
DAY1	11
DAY2	12
DAY3	13
DAY4	14
DAY5	16
DAY6	17
DAY7	18
リザルト	19
おもてなし	20
大会データ	22
公式制作物	24

●はじめに

「サーフィンのワールドカップ」といわれる「ISAワールドサーフィンゲームス」。
2018年9月、愛知県田原市のロングビーチを舞台に開催されました。
日本での開催は、28年ぶり2回目。
サーフィンが、2020東京オリンピックの追加種目として注目される中、
世界42の国と地域から、197選手が参加し、5万人の来場者を集めた本大会。
鮮烈な記録と記憶を、本誌にパッケージします。

大会概要

大会名称：2018アーバンリサーチ ISA ワールドサーフィンゲームス
(2018 URBAN RESEARCH ISA WORLD SURFING GAMES)

大会日程：2018年9月15日(土曜)～9月22日(土曜)

大会会場：ロングビーチ(愛知県田原市 赤羽根町大石海岸)

主 催：国際サーフィン連盟(International Surfing Association)

主 管：一般社団法人日本サーフィン連盟、2018 ISAワールドサーフィンゲームス実行委員会

共 催：田原市、田原市教育委員会

後 援：スポーツ庁、海上保安庁、愛知県、愛知県教育委員会、渥美半島観光ビューロー





弥八島上空から大会会場を望む



フルブルームでのピクトリーブークが表彰式を彩る

競技会場となった田原市のロングビーチは、日本有数のサーフポイント。波の質が高いだけでなく、自然豊かなロケーションも素晴らしく、五感に響くビーチとして、週末には多くのサーファーでにぎわいます。大会期間中は、砂浜に大会本部やジャッジタワー、選手団のテントが設営され、普段とは違う、華やかな雰囲気になりました。ビーチに隣接した弥八島公園には「おもてなしエリア」として、イベントステージや巨大スクリーン、フードコートが登場し、選手や観客が楽しめる空間が演出されました。



ロングビーチを一望できる展望デッキ



展望デッキから大会会場を望む



スポンサーブース



おもてなしエリア

「日本一の花の産地」

サーフポイントと並ぶ田原市の魅力は「花」。さまざまな場面で、田原市産の花々が大会を彩りました。



本大会は、日本代表(波乗りジャパン)の活躍抜きには語れません。
男子3名、女子3名の計6名が参加し、
男子では、五十嵐カノア選手と村上舜選手がダブル表彰台を獲得。
国別対抗リレーの「アロハカップ」では準優勝、
そして、チーム別では史上初の総合優勝と、過去最高のフィニッシュを果たしました。



五十嵐カノア
MEN2位



黒川日菜子
WOMEN11位



村上舜
MEN4位



橋本恋
WOMEN13位



大原洋人
MEN9位



川合美乃里
WOMEN16位



総合優勝が決定した瞬間



Naminori ヒカチウ



プレスカンファレンス①

大会概要及び日本代表選手記者発表会

8月10日(金)、東京都品川区の複合スポーツ施設「スボル品川大井町」において、全国メディアに向け大会の公式記者会見が開催されました。

会場となった人工サーフィン施設「citywaveTokyo」のこけら落としもあり、会見には多くのメディアが詰めかけ、大会の注目度も高まりました。



citywaveTokyo



ビーチクリーン

大会を目前に控えた9月2日(日)、会場となるロングビーチで、大々的にビーチクリーンが行われました。活動には、市内外から約900名が参加。夏の台風で漂着した大量のごみや流木は、みるみるうちに片付き、世界大会にふさわしい、美しいビーチを取り戻しました。



プレスカンファレンス②

大会前日公式記者会見

開会を翌日に控えた9月14日(金)、田原市役所で大会前日公式記者会見が開催されました。会見には、ISA(国際サーフィン連盟)のフェルナンド・アギーレ会長、大会長の酒井厚志日本サーフィン連盟理事長、大会長代行の山下政良田原市長らに加え、日本代表選手や海外の有力選手も出席し、大会に向け、抱負を語りました。



Opening



三河田原駅前をスタートするパレード（豊橋中央高校のマーチング隊）

Parade of Nations パレード・オブ・ネーションズ

9月15日(土)、パレードで大会が華々しくスタートしました。
コースは、三河田原駅前から田原市役所までの約600メートル。
参加各国の選手やISAスタッフは、マーチングバンドを先頭に行進しながら、
各国の小旗やフルブルームマムのミニブーケを手にした多くの観客と、
田原祭りの豪華絢爛な昼山車に歓待を受けました。



田原東部小学校



豊橋小学校



ISA



ISA



田原まつり会館で昼山車がお出迎え



Opening Ceremony オープニング・セレモニー

パレードの終着点となった田原市役所には、壮大な特設ステージが登場。
各国の海岸から持ち寄られた砂を一つの箱に集める
「サンド・オブ・ザ・ワールド・セレモニー」をメインに、
侍ショーで日本文化に触れながら士気を高めたほか、
ステージ上で全参加国の国旗を掲げ、
「平和・友情・スポーツマンシップ」を誓いました。



参加国のビーチの砂を混ぜていくサンド・オブ・ザ・ワールド・セレモニー





Luca Martin (PER)

- 9月16日(日)
- 天候:晴れ
- 波:2~3m
- 風:東~南西(サイドオンショア)
- 観客:10000人
- MEN:ラウンド1
- WOMEN:ラウンド1

競技初日は日曜日。天候にも恵まれ、多くの観客でにぎわいました。
サイズが大きく、難しい波のコンディションでしたが、
世界レベルのサーファーたちは難なく攻略。
ハイレベルなライディングに歓声が上がりました。
出場した日本代表の各選手(大原・村上・川合・黒川・橋本)は、
全員ラウンドアップ(勝ち抜き)を果たしました。

Competition Day.1

Competition (競技)

世界42の国と地域から197選手が参加した今大会。
プロ最高峰の世界ツアーに参戦している選手をはじめ、
世界トップクラスのサーファーが集い、
連日ハイレベルな戦いが繰り広げられました。



Sally Fitzgibbons (AUS)



Bethany Zanko(CAN)



Santiago Muniz (ARG)



Bianca Butendieg (RSA)





Competition Day.2

- 9月17日(月・祝)
- 天候:晴れ
- 波:2~3m
- 風:北西(サイドオフショア)
- 観客:10000人
- MEN:ラウンド1~2
- WOMEN:ラウンド2

競技2日目も、祝日で快晴。初日に引き続き多くの観客でにぎわいました。
特に、五十嵐カノア選手への注目度が高く、ビーチには早朝からたくさんのギャラリーが集まりました。
声援に応えた五十嵐・大原・村上の男子3選手は、全員ハイスコアでラウンドアップ。
女子の黒川・橋本選手もネクストラウンドへ、川合選手はリバチャージ(敗者復活)へ。
海外の有力選手も順当に勝ち進みました。



Shun Murakami (JPN)



Hitoto Ohara (JPN)

Competition Day.3

- 9月18日(火)
- 天候:晴れ
- 波:1.5~2m
- 風:北西(サイドオフショア)
- 観客:5000人
- MEN:ラウンド3~6
- WOMEN:ラウンド2~4

競技3日目は、前日までの頭オーバーサイズの波が胸〜頭にサイズダウン。
今後もサイズダウンが見込まれるため、急きょ19日を男子ファイナルとすることに決定され、この日は、決勝直前のラウンド6まで進められることになりました。
こうした中、五十嵐選手は順調に勝ち進み決勝ヘストレーティン。
大原・村上両選手も、リバチャージへ進むものの、決勝進出へ可能性を残し、19日の男子ファイナルが大いに楽しみになりました。
女子の全選手も、リバチャージで次のラウンドへ望みをつなぎました。



インタビューを受ける五十嵐選手





優勝したサンチアーゴ・ムニース選手



メダルを獲得した五十嵐のノア選手(左)と村上俊選手(右)

Competition Day.4

- 9月19日(水)
- 天候:晴れ
- 波:1~1.5m
- 風:北西(サイドオフショア)
- 観客:8000人
- MEN:Final
- WOMEN:ラウンド5

競技4日目、いよいよ男子の決勝を迎えました。
ファイナリスト4名のうち2名は、
五十嵐選手とアルゼンチンのサンチアーゴ・ムニース選手が前日に決定。
この日のリパチャージから、村上選手が勝ち上がり、
波乗りジャパンから2名がファイナルに進むことになりました。
決勝戦は、波の数が少なく、サイズも腰〜胸と小さめ。
こうしたコンディションの中、少ないチャンスを生かしたムニース選手が勝ち切り、
惜しくも五十嵐選手が2位、村上選手が4位という結果。
しかし、自国開催で波乗りジャパンが史上初のメダル獲得という快挙は、
2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、
サーフィン競技を大いにアピールすることにつながりました。

女子3選手は、それぞれ果敢にリパチャージを戦うも、
残念ながら最終日のラウンドへ進むことは叶いませんでしたが、
多くのファンを沸かせました。



Kanoa Igarashi (JPN)





Competition Day.5

- 9月20日(木)
- 天候:曇時々雨
- 波:1m前後
- 風:東南東(サイドオンショア)
- 観客:2000人
- Aloha Cup

競技5日目は、国別にリレー形式で戦う「アロハカップ」が開催されました。出場国は、開催国の日本に加え前回大会の上位7カ国で、フランス、メキシコ、コスタリカ、ポルトガル、スペイン、ペルー、アメリカと強豪揃い。ルールは、各チーム男女各2名の計4名の選手が、45分の制限時間で各3本の波に乗り、ビーチで次の選手にバトンタッチするユニークなもの。波乗りジャパンからは、五十嵐・村上・黒川・橋本の4選手が参加。結果は、スペイン代表が優勝、わずかな差で日本が2位となり、連日のメダル獲得に、ビーチが沸きました。



Competition Day.6

- 9月21日(金)
- 天候:曇時々雨
- 波:0.5~1m
- 風:東(サイドショア)
- 観客:2000人
- Off

この日は競技がオフとなったため、急きょ「波乗りジャパンサイン会」が開催されました。小雨まじりの天候にも関わらず、多くのファンが詰めかけ、日本代表選手と交流を深めていました。また、2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会も、大会会場の視察に訪れました。



2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の高橋会長(右から3人目)



優勝したサリー・フィッツギボンス選手



総合2位のオーストラリアチーム



総合3位のアメリカチーム



アロハカップ優勝のスペインチーム



総合優勝のジャパンチーム

Competition

Day.7

(ファイナルデー)

- 9月22日(土)
- 天候:晴れ
- 波:1~1.5m
- 風:北西(サイドオフショア)
- 観客:8000人
- WOMEN:ラウンド6~Final
- Closing Ceremony

競技7日目は、大会最終日。

女子の決勝では、オーストラリアのサリー・フィッツギボンス選手が圧勝しました。

また、この日決定する国別の成績で、日本が見事に総合優勝!

男子とアロハカップの銀メダル獲得に続き、団体では金メダルという結果に、会場は歓喜に包まれました。

ロングビーチで、過去最高の成績と、さらに成長の予感を手にした波乗りジャパン。

表彰台では、PRキャラクター「Naminoriピカチュウ」と共に栄冠を授かり、

記録と記憶に刻まれる、素晴らしいフィナーレを迎えることができました。

Result

OPEN MEN 《男子》

- 優 勝 サンチアーゴ・ムニース(アルゼンチン)
第2位 五十嵐カノア(日本)
第3位 ルーカ・メシナス(ペルー)
第4位 村上舜(日本)

OPEN WOMEN 《女子》

- 優 勝 サリー・フィッツギボンス(オーストラリア)
第2位 ペイジ・ハレブ(ニュージーランド)
第3位 ビアンカ・ビューテンダグ(南アフリカ)
第4位 サマー・マセイド(アメリカ)

ALOHA CUP 《アロハカップ》

- 優 勝 スペイン
第2位 日本
第3位 コスタリカ
第4位 アメリカ

TEAM 《総合》

- 優 勝 日本
第2位 オーストラリア
第3位 アメリカ
第4位 南アフリカ

● 参加国(アルファベット順) 計42カ国(地域含む)

AFGHANISTAN	アフガニスタン	IRELAND	アイルランド
ARGENTINA	アルゼンチン	ISRAEL	イスラエル
AUSTRALIA	オーストラリア	ITALY	イタリア
BARBADOS	バルバドス	JAPAN	日本
BRAZIL	ブラジル	MEXICO	メキシコ
CANADA	カナダ	NETHERLANDS	オランダ
CHILE	チリ	NEW ZEALAND	ニュージーランド
CHINA	中国	NICARAGUA	ニカラグア
CHINESE TAIPEI	台湾	PANAMA	パナマ
COSTA RICA	コスタリカ	PERU	ペルー
ECUADOR	エクアドル	PHILIPPINES	フィリピン
EL SALVADOR	エルサルバドル	PORTUGAL	ポルトガル
FIJI	フィジー	RUSSIA	ロシア
FRANCE	フランス	SENEGAL	セネガル
GERMANY	ドイツ	SOUTH AFRICA	南アフリカ
GREAT BRITAIN	イギリス	SOUTH KOREA	韓国
GREECE	ギリシャ	SPAIN	スペイン
GUATEMALA	グアテマラ	SWEDEN	スウェーデン
HUNGARY	ハンガリー	SWITZERLAND	スイス
INDONESIA	インドネシア	UNITED STATES OF AMERICA	アメリカ
IRAN	イラン	US VIRGIN ISLANDS	アメリカ領ヴァージン諸島

● 参加選手 197名



ISAから記念のサンド・オブ・ザ・ワールドと大会認定証を受け取る山下政良(国際部長)(右)



Omotenashi

おもてなし

今回の大会では、海外選手団や観客の皆さんへ、愛知県や田原市によるさまざまな「おもてなし」やPRが実施されました。



おもてなしエリア



aispot



マグネットシート



PR チラシ



カウントダウンボード



フラッグ（駅前通り横）



レセプションパーティー（華山会館）



シャトルバス



徳川家康と服部半蔵忍者隊



愛知県警察音楽隊



小学生見学



La花ノたみ



スポンサーブース



もち投げ



中吊り広告（豊橋鉄道渥美線）



ウェルカムボード（セントレア）
愛知県立芸術大学



サーフタウン看板（めっくんはうす）



フラワーアレンジメント（三河田原駅）



顔出しパネル（大会会場）愛知県立芸術大学



アロハビーチパーティー



大会特設サイト（ISA）



実行委員会ツイッター

大会ホームページ（実行委員会）



パレード応援小旗

クリアファイル

PRうちわ

PRステッカー
サーフタウンたはらステッカー
缶バッジ

ミニ田原



レストランガイド

ピクトリーブーケ（フルブルームマム）



扇子

■大会役員

役職名	氏 名	職
名誉大会長	大村 秀章	愛知県知事
名誉顧問	根本 幸典	衆議院議員
	関 健一郎	衆議院議員
顧問	加藤 慎也	愛知県副知事
	山本 浩史	愛知県議会議員
	渡会 清継	田原市議会議長
	中神 光正	田原市地域コミュニティ連合会会長
	林 全宏	愛知県東三河総局長
参与	川上 晃一郎	愛知県東三河建設事務所長
	中根 俊樹	愛知県東三河農林水産事務所長
	浅井 仁司	愛知県三河港務所長
	出戸 雅之	三河海上保安署長
	開田 裕二	田原警察署長
	酒井 厚志	日本サーフィン連盟理事長
	大会長代行 山下 政良	田原市長
副大会長	古賀 政信	日本サーフィン連盟副理事長
	野村 知宏	愛知県振興部長
	鈴木 正直	田原市副市長
	花井 隆	田原市教育長

※大会開催時

■大会スケジュール実績

期 日	時 間	内 容	会 場
9月 2日	9:00~10:30	ビーチクリーン	ロングビーチ
9月 3日		会場設営開始	ロングビーチ
9月12日	9:00~17:00	選手・チーム登録	伊良湖シーパーク&スバ
9月13日	9:00~17:00	選手・チーム登録	伊良湖シーパーク&スバ
9月14日	9:00~15:00	選手・チーム登録	伊良湖シーパーク&スバ
	14:00~15:00	公式記者会見	田原市役所
	7:00~8:30	ジャッジミーティング	伊良湖シーパーク&スバ
	19:00~21:00	マネージャーミーティング	伊良湖シーパーク&スバ
	10:00~12:00	リプレイカメラマンミーティング	伊良湖シーパーク&スバ
9月15日	10:00~10:40	パレード・オブ・ネイションズ	田原市街地
	10:50~12:00	オープニングセレモニー	田原市役所
	12:30~13:30	歓迎レセプション(VIP)	嵐山会館
	20:00~22:00	ウェーブ・アサウソンサーミナー	伊良湖シーパーク&スバ
	7:30~16:50	競技	ロングビーチ
9月16日	19:00~21:00	ISAG総会(AGM)	伊良湖シーパーク&スバ
9月17日	7:00~16:30	競技	ロングビーチ
9月18日	7:00~16:30	競技	
9月19日	7:00~14:10	競技(男子ファイナル)	
9月20日	14:30~15:00	男子表彰式	佐和ヶ八島海浜公園
	7:30~11:00	アロハカップ(個別対戦戦)	ロングビーチ
	13:00~14:00	波乗りジャパンサイン会	
	9:00~12:15	競技(女子ファイナル)	
9月22日	13:20~14:00	クロージングセレモニー	佐和ヶ八島海浜公園
	14:10~15:30	アロハビーチパーティー	

■2018 ISA ワールドサーフィンゲームス
実行委員会

役職名	氏 名	職
委員長	石川 恵史	田原市企画部長
副委員長 (副代表)	井本 公文	日本サーフィン連盟副理事長
副委員長	松井 直樹	愛知県振興部スポーツ振興課長
	加藤 昌高	元日本サーフィン連盟副理事長
委員	立山 勝巳	日本サーフィン連盟理事
	矢野 浩二	愛知県東三河総局企画調整部長
	吉武 正康	愛知外海漁業協同組合代表理事組合長
	中村 文紀	田原市地域コミュニティ連合会(赤羽根地域代表)
	河合 利則	田原市商工会会長
	森下 直樹	渥美商工会会長
	高瀬 与志彦	愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長
	鍵谷 亮太郎	日本サーフィン連盟愛知支部支部長
	阿部 慎一	渥美半島観光ビューロー副会長
	福田 享志	田原市体育協会会長
	永井 徹	田原市医師会会長
	座坂 登一郎	田原市小中学校長会(代表)
	三島 靖久	田原市サーフィン協会会長
	鈴木 エリ	田原市サーフィン業組合組合長
	鈴木 嘉弘	田原市総務部長
	増田 直道	田原市健康福祉部長
	大羽 耕一	田原市産業振興部長
	太田 俊成	田原市建設部長
	宮川 裕之	田原市教育委員会教育部長
	三浦 修司	田原市消防長
オブザーバー	奥西 淳	三河海上保安署次長
	桑高 辰巳	田原警察署警備課長
	小笠原 宏時	田原警察署交通課長
監事	河合 利則	田原市商工会会長
	鈴木 淳一	田原市会計管理者

- ~ H30.3.31 河合芳輝 (田原市小中学校長会会長)、
富田昌義 (田原市総務部長)、山内義晃 (田原市建設部長)、
大根義久 (田原市教育部長)、細井優 (田原警察署交通課長)
- ~ H30.5.24 石本健一 (渥美商工会会長)
- ~ H30.6.19 川瀬玲子 (田原市医師会会長)
- ~ H30.10.31 松橋浩幸 (田原警察署警備課長)

■実行委員会会議経過

- 第1 回実行委員会 H30.2.19 田原市役所
- 第2 回実行委員会 H30.5.25 田原市役所
- 第3 回実行委員会 H30.8.31 田原市役所
- 第4 回実行委員会 H31.2.18 田原市役所



実行委員会の様子

■来場者数

期 日	催し	人 数
9/15(土)	Opening Ceremony	5,000名
9/16(日)	Competition DAY1	10,000名
9/17(月・祝)	Competition DAY2	10,000名
9/18(火)	Competition DAY3	5,000名
9/19(水)	Competition DAY4	8,000名
9/20(木)	Competition DAY5	2,000名
9/21(金)	Competition DAY6/OFF	2,000名
9/22(土)	Competition DAY7/ Closing Ceremony	8,000名
計		50,000名



■競技会場図&おもてなしエリア図

■メディア露出調査結果(2018.4.25~9.27)
《日本国内》

区 分	露出数(件)	広告費換算
テレビ	37	8億2,478万4,782円
印刷物	638	3億1,081万7,917円
ウェブ	1,649	8億1,429万6,404円
ラジオ	3	233万1,000円
計	2,327	19億5,223万 103円

シャトルバスコース

P 一般駐車場のご案内
赤羽根文化広場(約900台)

赤羽根文化広場 ↔ 大会会場
無料シャトルバス

ロングビーチ周辺
● 大会会場までは、徒歩での移動となります。

三河田原駅からのご案内
三河田原駅 ↔ 大会会場
無料シャトルバス

● 無料シャトルバスのほか、豊鉄バス伊良湖支線(有料)もご利用いただけます。
● 新豊橋駅から三河田原駅までは、豊橋鉄道渥美線で35分です。

Artwork Package

公式制作物



メインボディウム



Bボディウム



ジャージ



イベントテント



ルールブック



メダル



オフィシャル
Tシャツ+キャップ



大会プログラム



バッグ



ステッカー



ウォーターバイ

リストバンド



ピーチタール



大会参加証

